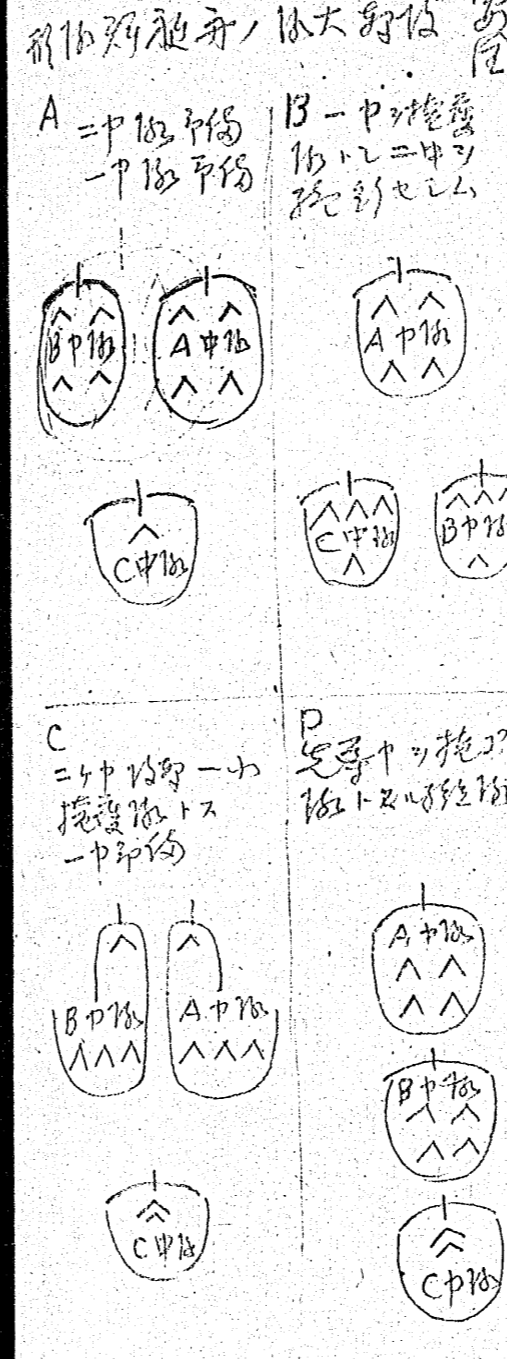
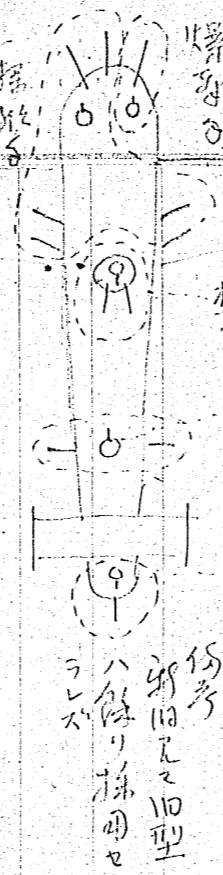


今部隊の作戦は、その標的を定め、その部隊の河川沿河地帯に作戦し、使中し、各兵員
 の定常武装に他、他部隊の対空兵器、多量に備へ、他部隊の如く、河川沿河地帯に作戦し、使中
 又、その部隊の武装に、他部隊の対空兵器、多量に備へ、他部隊の如く、河川沿河地帯に作戦し、使中
 セラレルこと判明す

二、その部隊の部隊は、
 半部隊に於ては、その部隊の部隊ナルモノヲ編成シ、之ヲ左岸及右岸方面に配属
 乙、その部隊の部隊は、他部隊の部隊ナルモノヲ編成シ、之ヲ左岸及右岸方面に配属
 英、その部隊の部隊は、他部隊の部隊ナルモノヲ編成シ、之ヲ左岸及右岸方面に配属
 丙、その部隊の部隊は、他部隊の部隊ナルモノヲ編成シ、之ヲ左岸及右岸方面に配属
 他、その部隊の部隊は、他部隊の部隊ナルモノヲ編成シ、之ヲ左岸及右岸方面に配属



B二五、他部隊
 傷死、死傷、他部隊



傷死、死傷、他部隊
 機首、機尾、機中、機左、機右、機上、機下、機前、機後

機首、機尾、機中、機左、機右、機上、機下、機前、機後
 機首、機尾、機中、機左、機右、機上、機下、機前、機後

機首、機尾、機中、機左、機右、機上、機下、機前、機後
 機首、機尾、機中、機左、機右、機上、機下、機前、機後

第一篇 水際ニ於ケル兵器使用上ノ注意

第五章 自動車、装甲車及戰車類

第一節 要 則

第一 水際地ニ於ケル運行ニ方リ左記事項ニ注意スヘシ

一 自動車ニ在リテハ機關部特ニ電氣部品、氣化器ニ浸水セシメサル爲車臺ノ高低及車ノ速度ヲ又戰車ニ在リテハ車體底部ノ水密程度ヲ顧慮スルコト肝要ナルヲ以テ各個ニ付能ク其性能ヲ了解シアルヲ要ス

二 沼澤及泥濘地

沼澤及泥濘地ハ車輛ノ通過極メテ困難ナルヲ以テ能ク性能上ノ限界ヲ知得シ置クコト肝要ナリ

1 裝軌式車輛ニ在リテハ武裝セル徒歩兵ノ通過ヲ許シ且車體底板ノ接地セサル程度ノ沈降ノ場合ハ運行可能ナリ

2 裝輪式車輛ニ在リテハ其行動ヲ阻害セララルル程度一層大

ニシテ甚シク泥濘地ニ喰込ミタル場合ハ自力ヲ以テ發進スル
コト困難ナルコトアリ

三 砂 地

海岸及河川ノ砂土ハ自動車輛ノ通過ヲ阻害ス殊ニ乾燥セル細砂
土ニ於テハ車輛ハ陷没シ一層通過困難ナリ

四 傾 斜 地

河川ノ兩岸等大ナル傾斜地ニ於テハ土質其他ノ關係上著シク通
過ヲ阻害セラルルコトアリ

第二 臨海地ニ於ケル水ハ鹽分含有ノ虞アルヲ以テ冷却用水ハ十分
吟味スルカ爲シ得レハ蓄溜セル雨水ヲ使用スル等ニ著意スルコト
肝要ナリ

第二節 自 動 車 類

第三 自動車類ハ浸水ノ害ヲ輕減スルタメ爲シ得ル限り左記ノ手段
ヲ講スルコト肝要ナリ

一 外部塗裝部ノ補修塗ヲ行ヒ又金屬素地部ニハ「ワセリン」又
ハ「ベトロラタム」ヲ塗施スヘシ

二 車體ばね關節部ニ施油シ又車輛部其他給油孔ニ「グリース」
ヲ填實シ蓋ヲ完全ニ裝著スヘシ

三 點火系統及發電機電動機ハ防水紙ヲ以テ被包シ防水防濕ノ
置ヲ講スヘシ

四 燃料系統殊ニ氣化器ハ浸水セサル如ク被包シ置クヘシ

五 蓄電池ハ電解液注入口蓋ヲ密閉シ内部浸水ヲ防止シ要スレハ
箱ヲ被包スヘシ

六 風車及節動輪ハ構造上其回轉ニ因リ水ヲ上方ニ飛散セシムル
ヲ以テ適宜覆ヲ施シ要スレハ風車「ベルト」ヲ脱シ置クヲ可ト
スルコトアリ

七 「クランク」室、差動機室等ノ點檢窓蓋ハ密閉シ置クヘシ

八 小ねぢ駐栓鞍鞍帽類ノ落脱セサル如ク緊締スルト共ニ附隨品ノ

縛著ヲ確實ニスヘシ

九 濕地通過ニ方リテハ地形土質ニ注意シ要スレハ荷重ヲ輕減シ又車輛ニ防滑鏈ヲ附スルノ外六輪車輛ニ在リテハ履帶ヲ附スルヲ可トス

第四 自動車類ノ水際地運行ニ方リテハ屬品、裝著品ノ外左記諸器具ヲ必要トスル場合アルヲ以テ情況ニ依リ適宜取揃ヘ携行スルヲ可トス

- 一 鐵棒（土質硬軟點檢知用）
- 二 叭、南京豆、俵、蓆類（「スリップ」防止用）
- 三 板（短橋工作用）
- 四 鐵線、鏈、釘（防滑材料縛著用）
- 五 「ロープ」引上滑車及扛重機
- 六 丸太（延子用）
- 七 木楔（昂上及「スリップ」防止用）

八 大槌（楔打込用）

九 土工用具、鐵線鋏、斧、鋸

二〇 圓匙、十字鋏

第五 使用後ハ各部毎ニ總則ニ示ス要領ニ依リ手入ヲ實施シ其發錆

又ハ變質ヲ防止スルノ外左記事項ニ注意スヘシ

一 海水ニ浸漬シタル場合ハ時期ヲ失セス左記部品ノ検査ヲ行フ

コト肝要ナル

- 1 磁鐵發電機、配電機、始動電動機、充電發電機等ノ絕緣
- 2 電氣裝置各接點部ノ腐蝕
- 3 電池内部ノ浸水ニ依ル局部放電
- 4 氣化器及燃料槽等ノ浸水
- 5 「シリンダ」内ヘノ浸水
- 6 「クランク」室及齒車室内ノ油中ヘノ浸水
- 7 聯動機及制動機ノ摩擦部ヘノ浸水

8 金屬部素地部特ニ「アルミニウム」合金部ノ發錆

- 二 海水ニ浸漬シタル自動車ノ外部ハ清水ヲ噴射シテ洗滌スヘシ
- 三 金屬部ニ油ト海水トノ混合附著シアル部分ハ揮發油ヲ用ヒ洗滌シタル後内燃機油又ハ「スピンドル」油ヲ塗布スヘシ
- 四 電氣部品ハ溫湯ヲ浸マセタル布片ヲ以テ鹽分ヲ拭ヒ去ル如ク手入シタル後徐々ニ乾燥シ又ハ金屬接點部ヲ磨拭シタル後機能ヲ検査スヘシ
- 但シ内部迄海水ニ浸サレタル場合ハ工場ニ於テ修理スルカ部品交換ヲ行フノ外處置ナキモノトス
- 五 「クランク」室及變速齒車室ニ浸水シタルトキハ潤滑油ヲ交換スヘシ
- 六 聯動機及制動機等ハ摩擦板表張り部ニ浸水シタルトキハ十分拭淨シタル後乾燥シ置クヘシ

第三節 装甲車及戰車類

- 第六 装甲車、戰車類ニ關シテハ概ネ自動車ノ注意事項ニ準シ適當ニ準備シ又使用後ノ手入ヲ實施スルノ外以下各要領ニ依リ處置スルコト肝要ナリ
- 第七 戰車類ヲ船舶ニ積載シ運搬スル場合ハ可及的各部ヲ密閉被包スルコト必要ナリ

 - 一 彈藥銃砲類及無線通信器材ハ別ニ取纏メ防水處置ヲ講スヘシ
 - 二 各窓蓋及扉ハ閉シタル後密塞スヘシ
 - 三 銃眼、鏡窓等ハ適當ナル木片、木板又ハ防水布ヲ以テ覆ヒ密閉スヘシ

第二篇 炎熱地ニ於ケル兵器使用上ノ注意

第五章 發動機類

第一節 要 則

第一 發動機ハ運轉ニ依ル發熱大ナルノミナラス外氣ノ高溫トナルト相俟ツテ過熱狀態ニ陥リ易キヲ以テ其操作適正ナラサルトキハ各部ニ燒付ヲ生シ遂ニ運轉不能トナルコトアリ故ニ之カ取扱ニハ不斷ノ注意ヲ拂フコト肝要ナリ

第二節 揮發油、潤滑油及冷却水

第二 揮發油ニ關スル注意事項左ノ如シ

- 一 必要以外ニ揮發油罐ノ口ヲ切ルヘカラス之溫度ノ昇降ニ依リ所謂「呼吸作用」ヲ爲シ損失大ナルノミナラス引火爆發ノ虞アレハナリ
- 二 揮發油罐ヲ炎天下ニ置クヘカラス之内壓ノ爲漏洩シ引火ヲ誘起スル虞アレハナリ

三 揮發油罐ヲ堆積スルニハ木箱ノ儘トシ裸罐ヲ多數堆積スヘカラス

四 揮發性比較的大ナル燃料ヲ使用スルトキハ「ペーパーロック」ノ害ヲ生スルコト多キヲ以テ燃料ノ選定ニ注意スヘシ（第五章第三節七ヲ參照ノコト）

五 炎熱ノ地ニ於テ揮發油ノ消費量ハ燃料槽ヨリ蒸發及各緊塞部ヨリ發散、漏洩等ノ爲其量増加スル場合多シ故ニ各部ノ發散、漏洩ヲ防止シ且運轉法ニ注意シ燃料ノ消費ヲ尠カラシムル如ク努ムルコト必要ナリ

第三 潤滑油ニ關スル注意事項左ノ如シ

- 一 潤滑油ハ粘度大且引火點高キ高級油（日本標準規格内燃機第四號以上）ヲ用フルヲ要ス
- 二 内燃機油ハ一般ニ炎暑ノ爲粘度減少シ從テ消費量稍々増加スルモノナリ其結果「シリンドラ」内ニ於テ内燃機油燃燒シ點火塔

ヲ汚損セシムルヲ以テ注意スヘシ

三 内燃機油ノ補充ハ少量宛多數回ニ行ヒ又交換ノ時期モ若干
ムルヲ可トス之カ爲油ノ粘度ヲ時々點檢スルコト必要ナリ

第四 冷却水ニ關スル注意事項左ノ如シ

一 冷却水ハ常ニ滿量トシ其漏洩ヲ防止スルヲ要ス又冷却水
々取替ヘ内部ヲ清掃スルヲ可トス

二 冷却液トシテ「グリコール」ノ如キ沸騰點高キ液ヲ使用シテ
便ナルコトアリ

第三節 運轉間ノ注意

第五 炎熱地ニ於テハ發動機ハ過熱シ易キヲ以テ特ニ左記事項ニ注
意スヘシ

一 遮蔽下ヲ利用シ覆蓋ヲ有スルモノハ之ヲ開放シテ空氣ノ流通
ヲ計ルヘシ

二 休止時或ハ爲シ得レハ運轉間ニ於テモ屢々冷却水ヲ交換シ又

風車ノ機能ヲ圓滑ニシ以テ冷却作用ヲ旺盛ナラシムヘシ

但シ冷却水ノ交換ハ徐々ニ行フヲ要ス是過熱セルモノヲ急冷ス
ルトキハ發動機ニ故障ヲ生セシムルヲ以テナリ

三 内燃機油ノ溫度ハ發動機過熱ト共ニ上昇スルハ已ムヲ得サル
トコロナルモ努メテ一〇〇度以下ナラシムル如クシ潤滑油冷却
裝置ヲ有スルモノハ其作用ヲ旺盛ナラシムヘシ

四 内燃機油ノ上昇ニ伴フ粘度減少ノ結果油壓計ノ指度漸次低下
シ遂ニ指針零ニ止ルコトアリ故ニ油壓調整裝置ヲ調整スル等油
壓ハ規定ニ在ラシムル如ク努ムヘシ

五 發動機ノ過熱ハ負荷大ナルニ從ヒ又回轉數ノ小ナルニ從ヒ大
トナル特ニ空冷式發動機ニ於テ然リトス故ニ過熱防止ノ爲ニハ
發動機回轉數（風車ノ回轉數ハ之ニ比例スルモ車輛ノ速度トハ
別ナリ）ヲ標準回轉數附近トシ努メテ輕負荷ニテ運轉スルノ著
意ヲ必要トス

六 發動機ノ過熱甚シク且發力不足シ諸種ノ方法ヲ講スルモ尙過熱ノ虞アルトキハ「ガス」吸氣管ノ中途ニ於テ注水冷却裝置ヲ臨時ニ附加スルヲ可トスルコトアリ

七 燃料ハ高溫ノ爲蒸發シ燃料系統ニ於テ空虛ナル部分ヲ生シ燃料「ポンプ」ノ作用ヲ害シ或ハ氣化器ノ噴出ヲ困難ナラシメ燃ニ發動機ノ運轉ヲ停止セシムル場合アリ之カ爲「ポンプ」及氣化器ノ一部ノ冷却法ヲ講シ其機能ヲ恢復セシムルコト必要ナリ

八 發動機高熱ノトキ始動ヲ行ハントスルニ容易ニ點火セサルコトアリ此原因トシテ「シリンド」内ノ吸入混合「ガス」ノ濃度大ナルカ又ハ壓縮不良ニ因ルコトアリ前者ノ場合ニハ注油「コック」ヲ開キ混合「ガス」ヲ一應排出シタル後再ヒ始動スルヲ可トシ後者ノ場合ニハ注油「コック」ヨリ内燃機油ヲ注入シ數回「クラシク」ヲ回轉シ次テ始動スルヲ可トス

第六章 自動車、裝甲車及戰車類

第一節 要 則

第一 自動車、戰車類ノ發動機ニ關スル注意事項ニ關シテハ前章發動機ノ部ニ依ル

第二節 運行間ノ注意

第二 炎熱直射時ノ運行ニ方リ發動機ニ關スル注意事項概ネ左ノ如シ

一 發動機ノ「ガス」速度ヲ低速トシテ長時間走行スルトキハ過熱ノ虞レアリ

二 情況之ヲ許セハ努メテ蓋窓ヲ開キ又木蔭等ヲ利用スルト共ニ發動機等ノ過熱ヲ考慮シ休止ノ時機ヲ適當ニ選定スルコト必要ナリ

三 冷却水沸騰スルトキハ一時運行ヲ停止シ發動機ハ空轉ヲ行ヒツツ過熱ノ原因ヲ點檢シ冷却裝置ノ能力ヲ十分發揮セシムルト

共ニ冷却水ヲ交換スルヲ可トス此際注水口蓋ノ離脱ヲ行フニ方
リテハ熱湯ヲ噴出シ危險ナルコトアルヲ以テ注意スヘシ
四 炎熱時水ノ補給困難ナル地方ニ於テハ要スレハ冷却水ヲ携行
スルヲ可トス

第三 車輛内ニ於ケル火災ヲ防止スル爲揮發油ヲ漏洩シ又燃料裝置
附近ニ火氣ヲ近ツケサル様注意スヘシ特ニ戰車、裝甲車ニ在リテ
ハ室内ハ甚シク高温トナリ漏洩滯溜セル揮發油類ヲ急速ニ蒸發シ
テ霧狀ノ「ガス」ヲ充滿セシメ點火裝置ノ火花ニ依リ引火爆發ス
ルコトアルヲ以テ頗ル危険ナリ

第四 車輛各部ノ脂油ハ炎熱時速ニ消費セラルルヲ以テ之カ給油ニ
關シ左ノ事項ニ注意スヘシ
一 注油部分ヲ見逃スコトナク給油スルコト肝要ナリ
一 車臺ノ注油箇所ハ數十ノ多キニ達シ其一部ノ注油ヲ逸スル
モ該部ノ摩擦ヲ大ニスルヲ以テ動力不足、操縦困難ヲ生ジ燃

料消費料ヲ大ナラシメ甚シキハ該部ヲ燒付破損ニ至ラシムル
コトアリ

2 「グリース」ハ熱ノ爲粘度減少シ所要ノ位置ニ止ルコトヲ
得スシテ自然ニ流下シ又遠心力ニヨリ飛散セラレ直ニ缺乏ス
ルコト多シ故ニ各軸受、伸縮筒、十字軸、各關節部ハ常ニ點
檢シねぢ類ノ緊定、緊塞具ノ取替等ニ依リ其散失ヲ防止スヘ
シ

3 齒車油ハ其粘度減少シ齒車室ノ緊塞部ヨリ漏出シ附近ヲ汚
損スルノミナラス甚シキハ室内空虚トナレルコトアルニ付注
意スルコト必要ナリ

二 使用スヘキ脂油ノ品質ノ選定ヲ適當ニスルコト必要ナリ
1 潤滑油ハ炎熱ノ爲ニ濃度稀薄トナリ散失シ易キヲ以テ凡テ
夏季用ニシテ成ルヘク粘度大ナルモノヲ用フルヲ可トス
2 「グリース」ハ炎熱ノ爲比較的速ニ變敗シ爲ニ酸性ヲ有ス
ハ

ルニ至ルコトアルヲ以テ其品質ヲ精撰スルト共ニ之ニ變敗ノ機會ヲ與ヘサル如ク絶ヘス補給注意スルコト必要ナリ

第五 電氣部品ハ外氣ノ高溫ニ依ル溫度上昇大ナルヲ以テ左記事項ニ注意スヘシ

一 始動電動機、充電用發電機等ノ電氣裝置ノ絶緣塗料ハ炎熱ノ爲融解シ遠心力ニ依リ飛散附著シテ軸ノ回轉ヲ困難ナラシムル虞アリ

二 附屬ノ電池ハ電解液中ノ水分速ニ蒸發シテ極板露出シ或ハ溫度四〇度以上ニ上昇シ爲ニ極板ヲ彎曲セシメ使用不能ニ陥ルコトアリ

第六 聯動機及制動機類ニ關シ左ノ事項ニ注意スヘシ

一 使用前十分點檢ヲ行ヒ表張り及摩擦帶ノ摩滅或ハ調整ノ不良ニ依ル發熱ナキ様ニスヘシ

二 戰車類ノ操向聯動機ノ如キハ其操作ニ方リ半聯動ヲ避ケ注意

シテ運行スルヲ要ス

三 運行中動モスレハ之等ノ部位過熱シ操作困難トナルコトアルヲ以テ時々水ヲ含ミタル布片ヲ用ヒ冷却スルヲ可トス

第七 空氣入「ゴムタイヤ」ハ地熱ト摩擦熱ノ爲空氣ハ著シク膨脹シ「タイヤ」ト「チューブ」密著シ「ゴム」ハ熔解破損セシムルコトアルヲ以テ左記事項ニ注意スヘシ

一 出發當日ノ天候氣溫ニ應シ空氣壓ヲ加減シ且運行間時々點檢シ要スレハ空氣ヲ排出調整ス

但シ特殊ノ場合ヲ除キ出發前一割減ノ空氣壓ト爲シ置ク程度ニテ可ナリ

二 戰車類ノ實體「ゴムタイヤ」ハ表面溫度概ネ八〇度以上ニ至ルトキハ破損ヲ生スル虞アルヲ以テ速度ノ規正ニ留意シ且冷却ノ方法ヲ講スルヲ可トス

三 休止時「タイヤ」ニ水ヲ注キ冷却スルヲ可トスルコトアリ

四 「ゴム」ハ日光ヲ受クルトキハ熱ノ爲硬化現象ヲ起スヲ以テ豫備「タイヤ」等ハ覆ニテ包ムヲ可トス

第三節 使用後ノ手入

第八 車輛類使用後ノ手入ニ方リ左ノ事項ニ注意スヘシ

- 一 車體ノ水洗ハ塗料ノ剝脱及發錆ヲ速ナラシムルヲ以テ爲シ得ル限り回数ヲ減少シ水洗後ハ油布ヲ以テ輕ク拭淨スルヲ可トス又特ニ強烈ナル直射日光下ニ於テハ之ヲ避クルヲ可トス
- 二 塗料剝脱部ハ之ヲ補修シ鐵素地部ニハ防錆用油ヲ塗布シ置クヲ要ス
- 三 外氣ノ多濕ハ朝夕ノ溫度變化ニ因リ電氣部品ニ結露ノ害ヲ及スヲ以テ努メテ之ヲ被包シ防濕ニ注意スルコト必要ナリ
- 四 風防「ガラス」ノ接合部ニ氣泡ノ發生スルハ已ムヲ得サル所ナルモ努メテ氣溫ノ變化ヲ與ヘサル如クスルヲ可トス
- 五 「タイヤ」ノ修理部ハ熱ノ爲分離シ再ヒ故障ヲ生シ易キヲ以

序 言

本小冊子ハ「パナマ」運河地帯ニ於ケル米國軍隊ノ爲ニ編纂サレタル「ジャングル」ノ兵士、及「ニユトギニア」トソノ隣接諸島ノ地方的條件ニ關シ濠洲軍當局ノ作製セル地ノ刊行物ヨリ採リ、之ニ修正ヲ加ヘタモノデアアル

熱帯地ニ於ケル戦闘訓練ノ必要ハ、諸所ノ戦場ヨリ總取サレル戦闘報告ニツイテ見テモ益々明白ニナリツ、アル從ツテ熱帯地ニ戰フ全軍隊ガ今后直面セントスル諸状態ニ關シ知識ヲ有スルハ必須ノ事デアアル

「熱帯地ニ於ケル諸兵心得」ハ戰術的小冊子デハナク、各兵士熱帯地域ノ戦場ニ於テナスベキコト、爲ス可ラザル事ニ關シ示唆ヲ與ヘントスルモノデアアル

熱地ニ於ケル戦闘ニ於テハ實際ノ戦闘ニ於ケル死者ヨリモ疾病ニヨル死者ノ方ガ多イデアアル

乍併又將士ガ衛生ニ注意シ經驗者ノ忠告ヲ遵守シタナラバ罹病者數ハ最小限度トナルデアラウ

「疾病ハ豫防シウルモノ」ト云フ事ヲ當ニ記憶セヨ

各兵士ハ少ク共初歩的注意ヲ守ラネバナラヌ

而シテソノ油斷ナラヌ敵ヲ擊破セネバナラヌ

第一節

「ジャングル」内ノ戦闘

(一) 「ジャングル」ノ戦闘ハ聯合軍兵士ニ取リテ重要デアアル現今聯合軍兵士ハ濠洲北方ノ諸島ニ於テ戦闘スル事ヲ覺悟スベキデアアル既ニ數千名ノ我が將士ハ「ソロモン」諸島「ニューギニア」及「バブア」ニ於テ戦闘ヲ交ヘソツアルノデアアル日本軍兵士ハ吾ガ陸軍ガ最近用ヒ始メタル裝備及戦法ニ極メテ類似セル裝備、戦法ヲ用ヒソツアリ最悪ノ「ジャングル」内ニ於テモ巧ミニ容易ニ突入シ得ル事ヲ實證シタ熱帯地ニ駐屯セル聯合軍兵士ハ自己自身ノ爲又祖國ノ爲「ジャングル」ノ戦闘法ヲ習得スベキ義務ヲ有スル

(二) 諸子ハ「ジャングル」ヲ却ツテ味方ト爲シ得ル熱心ナル研究トソレニヨツテ得タル知識ニヨツテ諸子ハ「ジャングル」内ヲ音ヲタテル事ナク又敵ニ見ラルル事ナク行動スル事が出來ル次イデ諸子ハ最モ有利ナル立場ニ於テ敵ヲ不意ニ襲撃スル事が出來ル敵ニ姿ヲ見セザル事ハ兵士ニ取リテ最善ノ防禦法デアアル事及突入シ得ザル「ジャングル」ノ如キハ存在セザル事ヲ記憶セヨ

(三) 「ジャングル」内戦法ノ究極ノ目標ハ奇襲デアアル「ジャングル」ノ兵士ハ恐ルベキ武器ト進歩セル知識ヲ以テ武装セ

熟練セル兵士ハ「ジヤングル」内ニ於テ敵ヲ不意ニ襲撃シ敗北セシメ而シテ後敵援軍ノ來ラザル中ニ委ヲ消ス事ガ出來ル身ヲ隠スニアラザレバ不意襲撃ハ不可能デアリ身ヲ隠シ得ザル時ハ攻撃ハ行フ可ラズ兵士ハ敵ニ身分ノ立テタル音ヲ懸カレ又委ヲ見ラレタル場合ハ速カニ「ジヤングル」ノ繁ミノ中ニ退キ不意打スベキ他ノ好機會ヲ求ムベキデアル

「ジヤングル」ノ兵士ハ多クノ國々ニ於テ小可動部隊ガ巧ミナル襲撃方法ニ依テ勝利ヲ博シタル事ヲ銘記スベキデアル

彼ノ有名ナ「メキシコ」ノ奇襲家「エミリアノ・サバタ」ハ次ノ如キ優レタル命令ヲ部下ノ兵士ニ與ヘテキル

「諸子ハ分散スルモ可ナリ、而シテ後ハ各自ノ判断力ヲ用フベシ、但シ余ノ命令ノ根本ハ次ノ如クナル事ヲ銘記セヨ、即「ジヤングル」ノ繁ミノ遮蔽地カラノ外決シテ敵ト戦闘ヲ交ヘルナ、敵ヲ待チ伏セ、側面ニ廻リ、誘キヨセ、惱マセ、奔命ニ疲レシ爲疲レ切ツタ處ヲ攻撃ス、然ル後退却シ、敵ニ推則サルガ如キ事ハ斷ジテ行フナ、何人モ豫測セザルガ如キ行動ヲ取レ、遮蔽内ニアリテ正確ニ射撃シ決シテ敵ヲ取逃ガスナ」ト

「ジヤングル」ノ恐ルベキ危險ノ如キハ訓練アル兵士ニ對シテハ存

在セズ、同僚ニ熱帯ノ諸疾病モ「ジヤングル」内ノ生活ノ從テ守ル任意深キ兵士ニ取リテハ太シテ恐ルルニ足ラナイ、普通ノ白人ガ文明ヲ遠ク離レタル最惡ノ熱帯「ジヤングル」内ニ於テ、二十年間モ生活シ、而モ頑健ナ健康状態ヲ維持シテ來テキルデハナイカ

(四) 「ジヤングル」内ニ於テ、巧ミニ行動シ戰鬥スルタメニハ肉体的ニ頑健デアリ、又耐久力ヲ養成シナケレバナラヌソノタメニハ

(A) 「ジヤングル」敵討ニ必要ナル裝備ヲ着ケ小銃ヲ持ツテ足部肩背部ニ捕ミヲ感スル事ナク暑熱ノ二日間繼續シテ毎日二〇斤ノ行軍出來ル様ニセヨ

(B) 軍裝ニテ七分以内ニ暑熱ノ日中一睡ヲ走リテモ氣分ヲ害ス事ナク後ニ敵シク疲勞スル事モナキ様ニ訓練セヨ

(C) 丸一中 *note* (註) 一週ノ序ナラン「ラ持ツテ行進シツツ叢林ヲ切り開キ、而モ水腫ヲ生シ筋肉ニ痛ミヲ感ズルガ如キ事ナキ様ニセヨ

(D) 軍裝軍靴ノママ五〇ヤードヲ泳ギテモ尙疲勞セザル様訓練セヨ

之等ハ最初ノ困難ナル必要條件デアアル併シナガラ「ジヤングル」ノ兵士ハ各自ガ獨立セル戦闘單位ナル事ヲ銘記セヨ兵士ハ武器彈藥糧食野菜寢具ヲ携帶セシ儘幾日間モ黎明ヨリ日夜ニ至ルマデ「ジヤン

グル」内ヲ切り開イテ進ム事ガ出来ナケレバナラナイ、健全ナル肉
体状態ニアツテ初メテ「ジヤングル」内ニ於ケル生活及行動ニ關ス
ル諸問題ヲ解決シ得ルノデアアル之ハ必ス爲シ得ル所デアアル有ユル人
種ノ多クノ人間ガ最モ深イ「ジヤングル」内ヲ日々行動シツツアル
ノデアアル

第二節 「ジヤングル」内ノ諸問題
細菌及毒虫

(六)「ジヤングル」ノ眞ノ危険物ハ肉眼ニハ見ヘナイ、其ハ細菌及毒虫
デアアル、之等ノ微細ナル敵ハ「ジヤングル」戦闘方則ニ從ヒ不意ニ
兵士ヲ襲ヒ遂ニハ死ニ至ラシメ、或ハ痲疾者タラシメル
之等ノ細菌毒虫ヲ防グタメニハ諸子ハ之ノ見エザル敵ニ對シテ自分
ヲ守ル術ヲ學ハネバナラヌ、最初ハ「ジヤングル」ニ於テ必要ナル健
康豫防法ヲ講ズル爲ニハ多クノ時間ヲ要スルカモ知レナイ、併シ修練
ニ依リ健康法ノ遵守ハ自動的習慣トナリ、一日間ニ極メテ僅少時間ヲ
用フレバ足リルニ至ル

(七)細菌ハ大部分「ジヤングル」ノ疾病ノ原因デアアル
最モ危険ナル細菌ハ通常病毒ヲ有スル土氏ヨリ來ル從ツテ人ノ住ム
事ナキ「ジヤングル」ハ最モ安全デアアル、熱帯ノ濕潤セル熱イ空氣ハ

細菌ヲ繁殖生存セシメルニ役立つ、何人モ口ニハ容易ニ「細菌ヲ撲
滅セヨ」ト云ヒ得ル、而モソノ直後ニ病氣ニ罹ルノデアアル、注意深
キ兵士ハ身体ガ泥ニヌレ汗ニ侵リ、樹液ニテ汚レテキテモ危険ナル
細菌ニ打勝ツノデアアル、諸子ハ帶ニ飲用水、食料及身体ノ清潔ニ意
ヲ用ヒナケレバナラヌ

(八)諸子ノ飲用スル水ハ一滴ト雖モ煮沸又ハ塩素殺菌ヲ行ハネバナラヌ
一見シテ透明無毒ニ見ユルモ處理セザル「ジヤングル」ノ水ヲ飲用
スレバ忽チ病魔ニ犯サレル、水筒ノ水ヲ處理スル最良ノ方法ハ「ジ
ヤングル」ノ各兵士ニ與ヘラレタル淨水錠ヲ使用スル事デアアル、容
器ニ書カレタル注意書ニ從ヘ、但シ淨水錠ヲ用ヒタル場合ニモ飲用
スル迄ニ少クトモ三十分間置カネバナラヌコトヲ記憶セヨ、「ジヤ
ングル」内ニ於テハ必ス土氏ノ居住セヌ方面ヨリ流れ來タル清キ少
流ノ水ヲ水筒ニツメル様ニセヨ、流れハ小ナレバ小ナル程ソノ水ヲ
一部分豚小屋或ハ便所ヨリ來ルガ如キコトガ少イ、併シカカル場合
ニモ健康ヲ維持セント欲セバ塩素滅菌(淨水錠ニヨル)ヲ行ヘ、一
日數回食塩ヲ取ルナラバ如何ナル淨水液モ煮沸水モ容易ニ飲ミ得ル
「ジヤングル」ニ於テハ食塩ヲ用フル事ヲ忘ルヘカラズ